

大瀧神社

水の神様そしてペットの護り神様

大瀧神社は、犬上川が激流をなして流れ降る「大蛇ヶ淵」の横に鎮座する古い歴史を持つ神社です。

神社の名前は、瀧を想わせるほど激しい川の流れに由来します。

御祭神は水を司る

たかおかみ 高麗神とくろおかみ 閻麗神の二柱の神様で、

犬上川流域を護る神として

篤い信仰を集め、

北の芹川流域の神様である

多賀大社・胡宮神社を合わせて

巡礼する「三社参」も盛んです。

本殿の隣には、この地域の祖である

稲依別王と、その愛犬の小石丸を祀る

犬上神社が鎮座しています。



大瀧神社と 犬上神社の縁起

”遠い遠い昔の出来事です。犬上川の流域に大蛇が住み着き、人々に災いをなしていました。これを見た、日本武尊の息子「稲依別王」いなよりわけのおうは、大蛇を退治するため、一緒に暮らす愛犬「小石丸」と共に、犬上川に分け入りました。しかし、大蛇は中々姿を現しません。山中を小石丸と共に歩き続ける内に王は、疲れ果てて、川の傍らの松の巨木の根方で、眠りに落ちてしまいました。暫くすると、小石丸が激しく吠え始めました。王は小石丸の声に目を覚ましますが、疲れていたので、小石丸をなだめ、又、眠りにつこうとしました。しかし、小石丸は吠えるのをやめません。眠りを妨げられた王は、怒り、刀で小石丸の首をはねてしまいました。すると、はねられた小石丸の首は、松の梢に向かって飛び上がり、何者かと戦う気配がしたかと思うと、大蛇の首に噛みついたまま川に落ちて行きました。松の梢から王を襲おうとした大蛇にいち早く気付いた小石丸が、危機を知らせるために吠えていたのでした。小石丸の活躍により大蛇を退治した王ですが、小石丸の首をはねたことを大いに悔やみ、そして悲しみ、この地に犬胴塚を造り小石丸を弔いました。この塚に植えられた松が犬胴松です。

大蛇と小石丸の首が流れて行った激流は、大蛇が淵と名付けられ、この岸に建立された犬上神社に稲依別王と小石丸が祀られています。”

犬上神社と小石丸

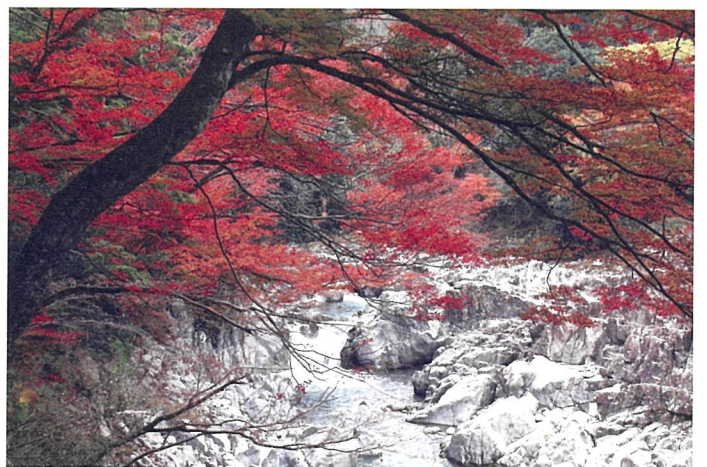
稲依別王を護るために闘った小石丸は、犬上神社と川向かいの小さな祠に祀られ、安産の神様として信仰を集めていましたが、最近ではその御利益が、犬を始めとするペットの長命長寿と、ペットを愛する人への幸せへの授与、にまで広がり、多くのペットと、その飼い主が参拝する神社となっています。



多賀参詣曼荼羅に描かれた小石丸と大蛇

大蛇ヶ淵

犬上川は、大瀧神社が鎮座するところで、瀧のような激流となって流れ降ります。ここを小石丸と闘った大蛇に因み「大蛇ヶ淵」と呼びます。まさに荒れ狂う龍のイメージです。この白く輝く奇岩を縫うように激しく流れる景色は絶景。特に秋、激流を彩る紅葉の綾錦も絶景。(詳しくは、『多賀の国物語1』をご覧ください。)



秋の大蛇ヶ淵



夏の大蛇ヶ淵

小石丸を 捜せ!

ペットの守り神となった小石丸。

小石丸は姿を変え、境内、そして大蛇が淵の彼方此方に隠れています。
小石丸を見つけ出し、幸せを授けていただきますよう。



1 大瀧神社本殿

現在の本殿は、第3代徳川将軍家光の寄進により改修された、大規模ないつけんしやながれつくり一間社流造の建築で、朱の彩色が残され、往時の華麗な姿を偲ぶことができます。また、拝殿の棟には、大蛇ヶ淵から飛び出た龍神を思わせる見事な龍の瓦で飾られ、やしろここが水神を祀る社であることを示しています。

本殿の木鼻には象とともに、小石丸が・・・



2 犬上神社

本殿の横に摂社として小石丸と稲依別王が祀られています。ここではペットの長命・長寿を祈念する御祈祷が行われています。詳しくは多賀観光協会までお問い合わせ下さい。



3 犬洞松

稲依別王は、大蛇と闘った小石丸の洞を松の木の下に埋葬しました。やがて、この松の木は「犬洞松」と呼ばれるようになりました。

後に、この松の木は枯れてしまいましたが、その幹を祀る堂が建立され、勇敢な小石丸の思い出と物語を伝えています。



4 吠える磐

犬洞松の側に安置された大岩。あたかも、小石丸が松の梢に潜む大蛇に向かって吠えたてているように見えます。



5 小石丸を呼ぶ樹

大蛇が淵の岸に立つ杉の巨木。一番下の枝がまるで人間の腕のように、対岸に伸びています。その向かいには、犬上神社元社があります。

まるで小石丸を失った稲依別王が小石丸に向かって、その蘇りを求め、呼びかけているように見えます。幹に耳を当てると、大蛇ヶ淵が放つ激流の音の中から、小石丸の元気な声が聞こえてくるような気がします。



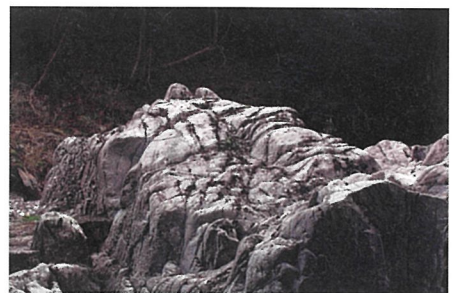
6 蛇神の顔磐

大蛇が淵の磐から浮き出た不気味な顔。小石丸との戦いに破れた、大蛇の苦悶の表情にも見えます。



7 小石丸の磐

境内から大蛇が淵に降りる遊歩道があります。道を下ると、目の前を奇岩を縫って、大蛇が淵の激流が流れ降っています。岩をよく見ると、何やら犬の耳のような突起のある岩が。さらに後ろには狛犬の尾のように岩が付いています。全体を見ると、対岸に向かってうづくまる小石丸の背中のように見えます。大蛇と闘った小石丸が石に変じ、大瀧神社を護っている……？



8 犬上神社元社

大瀧神社本殿から見て、大蛇が淵を挟んだ対岸の斜面に鎮座する神社。元々犬上神社はここに鎮座していましたが、後に大瀧神社の横にせんぞ遷座したと伝えられています。この両社が激流に象徴される大蛇が再び暴れ出すことがないよう、睨みを効かせているようにも見えます。



